



主の降誕(夜半)(ルカ 2:1-14)

心を開いて「私たち」となられた主を迎える

主の降誕おめでとうございます。「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。」世界中のキリスト者が、ひとりの幼子を待ち望んで与えられた答えです。私たちは今日与えられたひとりの幼子を、唯一の希望として持ち帰りましょう。

「初めての子」「布にくるんで飼い葉桶に寝かせた」この姿は貧しい環境であれば同じ姿の子がいるかも知れません。それでも、私たちが目にしている幼子イエスは、同じ姿をしていても唯一のお方なのです。

貧しい姿で生まれると、それだけで命の危険が伴います。「生きていけるだろうか」という不安がつきまといます。神は同じその弱く貧しい命を受け取られました。イエスの誕生は、初めから人間につきまとう「死の恐怖」が打ち負かされるためだったのです。

誕生そのものは手放しで喜ぶことができますが、人間は誕生と同時に「死」と隣り合わせなのです。極端に貧困であればより早く近づいてくるかも知れません。しかしイエスは、人間に忍びよる恐怖を打ち負かすために、人となってくださったのです。次の通りです。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3・16)

すべての人が、初めて見る希望を腕に抱くためにここに集まりました。イエスを信じて生きるなら、逃れられない恐怖を乗り越えることができます。イエスを腕に抱き、イエスを信じて生きるなら、すべての人が希望にあふれて生きることができるのです。

それぞれ、置かれた生き方があります。当てはめて考えてみましょう。幼い子どもたちは、おもちゃとか、大切にしている持ち物があるでしょう。おもちゃはいつか手放すのですが、イエス様を覚えて帰るなら、これからずっとそばにいて、喜びと楽しみを与えてくださいます。

中学生高校生にとって、イエス様をそばに感じて生きていくことは、誰も頼れなくなったときの助け主を持っていることになります。本当に追い込まれたときは、誰もそばで助けることができません。

学校での試験で、試験問題と答案用紙を前にして、誰がそばにいてくれるのでしょうか？誰もそばにいないはずですが、高校受験大学受験、「問題を開けてください」と言われた瞬間、誰もそばにいないときでも、イエス・キリストはそばにいて力づけてくださるのです。

あなたが社会人であれば、困難はより高い壁となってくるでしょう。それを乗り越えようとするとき、あなたのためだけにそばにいてくれる人がいるのでしょうか？皆、自分のことで精一杯なのです。それでもいつも、あなたのためにそばにいてくれる。それがイエス・キリストです。

それぞれの必要を叶えてくれる幼子イエスを、腕に抱き、心に納めて帰りましょう。中田神父も、羊飼いの仕事をそばで導いてくれる方として、幼子イエスを心に納めて帰ろうと思います。「わたしの羊の世話をしなさい」との仰せに、いつも忠実を尽くすことができるように、ミサの中で祈ります。各自、幼子イエスを受け取って、置かれた場所での人生を完成できるように、ミサの中で祈っていきましょう。